



いながき

22年度決算を認定

23年度補正 財政調整基金に8億円を積み増し！



いとう

平成 22 年度決算は、実質収支 8 億 7,897 万 7 千円、単年度収支でも 5,763 万 9 千円の黒字となった。こうした中、財政調整基金 4 億 9 千万円を積み増し財政基盤を固めるとともに、第 4 次総合振興計画・後期基本計画や施策大綱に沿った事業が進展しました。

23 年度一般会計補正予算は、12 億 6,693 万 8 千円を追加、歳入歳出総額を 218 億 4,327 万 2 千円に。財政調整基金に 8 億 2 千万円、庁舎建設基金に 1 億円を積み増した他、保育所・道路・学校整備も。

【22年度決算討論要旨 稲垣】

総額 30 兆円の『円高・デフレの緊急対応総合経済対策』で、市の事業も進展！

国は、22 年度も総額 30 兆円を超える経済対策を打ち出しました。各種補助金や交付金により、市の財政も改善し懸案の事業も進展しました。財政力指数は 0.87、財政健全化指標の経常収支比率は 79.9%、公債費比率 6.6%と良好な改善が見られた。『都市計画税』4 億 3 千万円も大きく寄与しました。

地域活性化臨時交付金や各種補助金を活用し事業を推進

学校整備では、南中学校、三輪野江小校舎・体育館の耐震補強・大規模改修工事並びに、関小・旭小学校体育館の耐震診断と大規模改修設計を実施。また、美南小学校建設用地を 15 億円で購入。

子育て支援では、通院にかかる子ども医療費支給が中学卒業まで拡大(入院・通院とも 15 歳まで支給)。また、病児・病後児保育がスタート。障がい者支援では、第 2 フレンドパークが開設されました。

『新駅』は来春の開業に向けた駅舎・ホームの建設が始まり、中央土地区画整理地内調整池が本格稼働。浸水被害の軽減が図られるとともに、緑地・修景施設を整備。新栄地区道路整備が完了しました。国の経済対策という背景は大きいものの、地域活性化臨時交付金や各種補助金を積極的に活用し、事業の推進を図ったことは評価でき、22 年度決算の認定に同意しました。

具体的課題に、迅速かつ実効性ある取り組みの推進を！

3.11 の教訓を生かした総合防災対策の見直し・拡充。子育て支援(待機児童の解消等)。5 大疾病対策と地域包括ケアシステムの整備。ゴミの減量・分別・資源化推進による第二焼却場の建設中止、小松川工専地区への『産廃業者』進出対策等、喫緊の課題について実効性のある取り組みを求めました。

『最小の費用で最大の効果を挙げる』のが行政の役割、一層の努力を！

今後、『行財政改革の推進』・『開かれた市政』実現の為、徹底したコスト削減、ムダの排除、事業の選択と集中、効率的行政運営を推進し、さらなる情報開示と説明責任を果たさなければなりません。

やるべき課題は山積みですが、世界同時不況が現実味を増し、税収の伸びは期待できません。市職員のスキルとモラルアップを図り、将来を見据えた政策の立案、知恵と工夫で特色あるタイムリーな事業を市民との『協働』通じ、実現を図るよう期待し賛成の討論としました。(稲垣記)

いながき・いとうの

9 月議会報告

10 月 8 日(土) 午前 10 時 30 分～

おあしすセミナールーム

どなたでも

いながき 茂行 栄町 782 番地 1C-1101 TEL 983-1628

Eメール iimachi.yoshikawa@gmail.com

いとう 正勝 きよみ野 2-8-2 TEL&FAX 983-1117

Eメール itoh72@nifty.com

* 市民改革クラブ ホームページ開設 *

http://www.geocities.jp/kaikakuclub

産廃業者進出に対し 市は強力な指導を!

いながき 茂行

小松川工専地区に、産業廃棄物中間処分業『㈱エスオーテイー』が進出を予定している。

主に掘削・解体工事で排出される土砂混じりのコンクリートなどを選別・粉碎し、リサイクル出来るようにする施設。

県の産業廃棄物指導課で、現在許可審査手続き中。すでに事前審査が終わり許可審査手続きに入っており、早ければ今年12月にも許可の予定。

心配な粉塵対策、 環境の悪化

事業所の場所は、以前同様の業務を行っていたクリーンライントの跡。東京電力の高圧線27万5千ボルトの送電線下。電気事業法による規制や地役権が設定されており、屋根付きの建物が建てられない。

騒音や振動もあるが、粉塵の飛散による地域環境への影響と

健康被害が心配される。

原則は建屋内 での作業

産業廃棄物中間処分業に対する県の指導では、『中間処分施設は、原則として建屋内に設けること。また、廃棄物の保管は原則として容器を用いること』となっている。

工専地区とはいえ、近隣の事業所や隣接住宅に対し、当然配慮すべき事項だと考える。

本来、屋根が出来ない立地での事業は行うべきではない。もし進出するのであれば、屋根に代わる防塵ネット・集塵機・散水施設などを設けるのは当然である。建屋内と同等の効果のある騒音・粉塵等の対策を講じなければならぬ。

県と連携して しっかりと指導せよ!

市はこれまで業者に対し、環境保全条例に基づき、近隣自治会への説明会の開催や環境保全協定の締結等を求めている。

だが、さらに市民の立場に立った対策・対応が必要とされる。

一般質問の中で市長は、『十分な対策を立てるよう県にお願いしている』『環境パトロールをさらに充実させる』『苦情については、速やかに状況確認し、越谷環境事務所と連携して対応する』等と答弁。

しかし、今直ちにやるべきことは、県に市民の意向をしっかりと伝えることと、業者に対し、一歩踏み込んだ強力な指導と折衝を行うことである。

安心・安全のまちづくりの実践を!

日頃、『安心・安全なまちづくり』や『住み良さ日本一を目指す』といった言葉だけではない具体的な取り組みを求めたい。これまでの市の対応を見る限り、当事者意識に欠ける。許可権は県にあるが、産廃施設は吉川市内に設置される。市民の声を背景に、しっかりと対応していただきたい。

9月議会は9月1日から22日まで開催。25議案を全て可決。

主な議案は●市条例の一部改正(介護福祉、開発許可等の基準及びまちづくり整備基準、吉川市税、職員の勤務時間・休日及び休暇に関する条例等)●市道の路線認定●22年度決算の認定●23年度補正予算について。●22年度決算については、稲垣・伊藤が質疑。

一般会計補正予算

歳入歳出に12億6千6百90万円を追加。主な歳出は、財政調整基金への積立8億、庁舎建設基金積立1億円の他、学校施設整備事業・中央公民館・おあしすの施設整備や備品購入・道路補修工事・民間保育所整備補助・児童虐待・DV対策、吉川美南駅駐輪場等の事業。

22年度決算討論

稲垣が賛成討論に立ち提案・要望(1ページ参照)

委員会質疑

総務水道委員会(稲垣)、文教福祉委員会、(伊藤)が補正予算と22年度決算に関連し、数十項目にわたって確認、指摘、要望を交えて質問。

一般質問

①投票率アップの対策②産廃業者進出に強力な指導を③税金等の滞納対策は。(稲垣)

①放射線対策 ②新駅関係(進捗状況・アクセス整備・大場川改修・跡地整備と税込等)について ③新庁舎建設問題④吉川の農地の保全 (伊藤)



「放射線」は広域で 安心の取り組みを いとう 正勝

広島、長崎の原爆をはるかに上回るとされる放射線の放出。収束はまだ未定。健康への懸念。遺伝子への影響。胎児、乳幼児、成長期の子どもたち。若いお母さんをはじめ保護者の心配はつきません。

▽いまだどんな状態なのか。▽どう対応すべきなのか。▽何が出来るのか。

吉川市は市民の不安に応えるため、7月8日、市独自の暫定基準値を設定。空気中の外部被ばくの放射線量に対する当面の取り組み、考え方を示しました。

9月議会には市民の間から、▽検査の徹底▽汚染土壌の早期の除去などを求める請願書も提出され、議会はそれを全員一致で採択しました。

「放射線」は複雑で広域にわたるテーマ。吉川市の姿勢を評価しながらも、もっと国、県周

辺自治体などとの連携、協力が必要ではないか。そのことが安心と信頼につながるのと立場で質問し、提案しました。

土壌の除染は必要なら 独自に実施する

市長や担当の部長の答弁を整理しますと▽市の「暫定基準」は国や県の統一基準が示されるまでの間の当面の考え方であり▽国際的な基準や専門的見地を参考に設けた。▽「この考え」は保育所、幼稚園、小、中学校の関係者や保護者に周知し理解を求めた。▽県の検査、市の検査の結果、三輪野江の三輪神社境内隣接の公園で暫定基準をこえるデータ

が検出されたため、日中6時間以上の外での遊びは遠慮してほしいとの看板をかかげた。

▽学校給食は産地の明示につとめ、食料品、水道、地下水、下水道などについても県などの検査データを注視している。▽吉川での各種データは濃淡は

あるが全体的に低減の傾向▽土壌汚染については市としても継続して検査し必要があれば独自に除染につとめる。

幅広い情報収集 連携と協力で効果を

原子力発電所をかかえる福島。隣接の茨城、栃木、宮城。どう向き合い、対策を講じているのか。千葉の柏市は野田、流山など周辺の6市共同で専門家も交えて対策協議会を設置。連携、協力して▽情報収集▽各種の検査▽土壌除染▽市民

相談に当たっています。埼玉県は三郷市の幸房小学校で9月26、27、28日の3日間、除染Ⅱ放射線低減化の実証実験を実施しました。三郷市はいち早く放射線対策室を設け、まず17の保育所を対象に10月中旬までに、表土3〜5cmを除染する作業に着手しています。こうした周辺自治体とも情報交換して取り組んでほしいと強く求めておきました。

投石

中央中学校のプールを囲う屋根と側壁に投石があいつぎ、水泳の授業に支障。市教委は学校側の要請を受けてこの鉄骨のガラス屋根と側壁を全面撤去することに。9月議会にこの経費1,200万円の補正予算を計上した。

中央中のプールは平成4年に新設されたが、この10年余、水泳シーズン前の6月に投石事件が頻発。生徒がケガをしたこともあり、先生達が総出で破片の除去と安全の確認作業に追われることも。手間、授業内容の変更。加えて猛暑日のプールサイドは蒸し風呂状態に。この間、一昨年は水泳の授業が全面ストップ。今夏は、軽微ながら3回の投石事件。警察も犯人像の手がかりはない。

9月17日(土)運動会。元気一杯の競技に声援を送りながら校長や教頭先生の話聞きプール室ものぞいて見た。学校はダミーの監視カメラも設置。

投石は許せない行為だが、この「プール室」は「無用の長物」ではないか。なぜ夏の短い期間しか使わないプールを鉄骨ガラス張りにしたのか。建設費、撤去費とも貴重な税金。当時の関係者はどう説明するのだろうか。南中でもプール室への投石が続いているという。「教育委員会」は見解を明らかにすべきだろう。



保育所 新駅 新庁舎

～最新の情報～



保育所 吉川駅南口(市駐輪場跡)と中曽根に新設の保育所。計画通り24年4月オープン。
送迎バス 駅前保育所に一時預かりの保育室設置。ここをキーステーションに、公、私立保育所8園を対象に、朝、夕の送迎バスを運行の予定。20時までの延長保育も活用し、働くお母さんたちを応援。1月の入所申し込み後、希望者募り、運用の内容を固めることに。
 ※県内で事実上初めての試み。混乱なくスタート出来るよう見守ります。

新駅 24年3月開業。自由通路には人間国宝 室瀬和美氏の漆塗り壁画(4.5×6m)。
駅前広場 西口(南)は4800㎡。駐輪場(300台)設置。駐車場なし。バス停4ヶ所とタクシー乗り場にはシェルター。広場正面に芝生のスペース。シンボルのモニュメント設置も(検討中)。三郷寄りに森の公園、トイレも。東口(北)は暫定広場(3100㎡)。駐輪場250台(無料)、駐車場160台分(有料)を設置の計画。 ※マイカー誘導をめざし、駐車料金、運用に特段の配慮を要望。
新駅へのバス路線 西口からは美南地区を巡り現駅と結ぶルートの新設。東口は、旭～三輪野江方面からのルートを検討中。道路が狭く、栄町、きよみ野方面からの乗り入れは当面は困難。

新庁舎
 新庁舎建設委員会は24年1月発足。7月に報告。メンバーは学識経験者(外部・複数)、各分野代表、公募(3)など20人。▽安心・安全の砦▽開かれた庁舎がキーワード。専門機関に現庁舎の耐震診断を依頼。同時に各種の資料提供や疑問、質問に答える事務局補佐の役割も求める考え。この関係予算を承認。建設基金は今回1億円余積み増し10億6千万円に。地方債(借金)は建設費の75%まで可能とのこと。 ※市民の理解と協力があれば早期に着工の出来る状況。

新トンネル 高速速下までを結ぶ334号線(さくら通り)の新トンネルは新駅開業時の24年3月に全線開通の見通し。 ※これまで何度も計画延伸。今度は期待できそう。

吉川の地震

これは関東大震災の時の吉川の状況です。ー88年前の9月1日(土)午前11時58分。震源地 相模湾北西部。震度7・9。吉川は震度6強(春日部地震計)。▽全壊111戸▽半壊164戸▽死者1人負傷者1人。全半壊は当時の住居戸数からの推算で全体の12.8%。▽吉川小学校は新築の2階建校舎が前面に7寸(21cm)程傾斜。昭和33年まで「つかえ棒校舎」と呼ばれた。▽液状化・地割れは吉越橋から現県道沿いに(現交番近く)とところどころ8寸程。中央病院北側から吉川橋に向かってところどころ2〜5寸程。東西では三輪野江〜中野〜平沼辺りで2〜5寸。高久周辺でも。地域の数箇所では液状の土砂の噴出もみられたとのこと。避難者は都内より593人(9月17日)、625人(9月30日)の記録も。ー吉川の歴史に詳しい染谷教育長が先の6月議会での質問に答え紹介したものです。
 ※一寸はおおよそ3.03cm。
 (いとう)

編集後記

越後湯沢から、ほくほく線の虫川大杉で下車すると、一本の大きな杉の木がある。樹齢千年を越す『あばれ木』。幹がいろんな方向へ伸び、異相の姿に圧倒される。今は神社のご神木だが、神社が出来る前から存在している。巨樹・巨木の多くは、ご神木として守られてきたものや、人が分け入ることの出来ない、深い森や山奥に見られる。そして、虫川大杉のようならば木である。曲がりくねった幹や枝、こぶだらけの木は、建築や土木の材料として使うことができない。

異様な姿で、千年もの間人々の暮らしを見つめてきた。度重なる飢きんや大災害の時も。容赦のない、理不尽な自然の力の前に、人々はこの大杉に祈らずにはいられなかつたのだろう。人や獣は、自身を守る為、危険を察知し逃げる。しかし、木は立ち続ける。自然の全てを受入れる。地震に津波、原発事故。被災地の木々は、私達の悲しみや喜び、そして町や海をどのように見つめ、見守っているのだろうか。この4年間。議会の常識に囚われず、活動してきた。今後も、そうあり続けたいと思う。(いながき)